

授業科目	保育実習Ⅲ				単位	2		
履 修	選択	関連資格	保育士		ナンバリング	WE21632J		
開講年次	4	開講時期	通年	該当DP	DP1-1 DP1-2 DP2-1 DP2-2 DP3-1 DP3-2 DP4-1 DP4-2 DP4-3 DP5-1 DP5-2			
担当教員	文屋 典子							
授業概要	児童福祉施設における実践を通して児童福祉施設の役割や機能について理解を深め、保育士に求められる知識、技術、判断力、態度を養う。子どもとの関わりをとおして信頼関係を形成すること、生活環境を整え日常生活支援を行うことの実践を通して、子ども一人ひとりの特性やニーズを理解して対応すること、保育指導案や支援計画の立案について学ぶ。子どもと家庭のニーズを理解しそれに対応する能力を培い、関係機関との連携や地域との協働、保育士の多様な業務と職業倫理について考察を深める。							
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既習の教科や保育実習の経験を踏まえ、実践を通して、児童福祉施設の役割や機能について理解する。 2. 子ども一人ひとりの特性やニーズを理解し、適切に対応する方法を習得する。 3. 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を身につける。 4. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的実践に結びつけて理解する。 5. 実習で直面した自己の課題を理解する。 							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	0	0	30	70	100	
知識・理解 (DP1-1)					3	3	6	
知識・理解 (DP1-2)					3	3	6	
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)					5	10	15	
思考・判断 (DP2-2)					5	10	15	
関心・意欲 (DP3-1)					3	3	6	
関心・意欲 (DP3-2)					3	3	6	
態度(DP4-1)						15	15	
態度(DP4-2)						5	5	
態度 (DP4-3)					3	3	6	
技能・表現 (DP5-1)						5	5	
技能・表現 (DP5-2)					5	10	15	
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設の役割と機能について実践を通して理解を深め、既習の教科や保育実習の経験を踏まえて保育実践に必要な知識技術を理論化、体系化して理解できている。 2. 子ども一人ひとりの特性やニーズを適切に捉え、対応する方法を検討・実践できる。 3. 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援、保護者支援、家庭支援についての理解を深めている。 4. 保育士の業務内容や職業倫理について理解し、専門職としての自覚にもとづいた行動ができる。 				<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設の役割と機能について実践を通して理解している。 2. 子ども一人ひとりの特性やニーズを理解し、適切に対応する方法を教わりつつ実践している。 3. 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援、保護者支援、家庭支援のための知識を身につけている。 4. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的実践に結びつけて理解している。 5. 実習で直面した自己の課題を理解している。 				

5. 保育士としての自己の課題を明確にし、課題克服に向けた努力に取り組んでいる。				
授業計画				
進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)
1	<p>1. 実習施設は、乳児院、児童養護施設、障害児施設等の児童福祉施設のうち、大学が実習施設として指定する施設とする。なお、実習先は学生の希望を踏まえ、大学側で決定する。</p> <p>2. 実習期間は10日間とし、原則として8月～10月の間に実施する。</p> <p>3. 実習の目的、実習内容および実習に臨むにあたって必要となる書類の作成や諸手続き、事前学習、実習後の課題などについては「保育実習指導Ⅲ」の授業で説明する。</p> <p>4. 実習期間中は巡回指導、実習後の振り返りは個別指導を行う。</p> <p>※実習の準備状況(事前学習、健康状態など)によっては、実習を履修できない場合もある。また、実習開始後も実習生として不適切な行動があった場合は実習を取りやめにする可能性がある。その他、実習の履修要件については、キャンパスライフの「保育実習の履修要件」をよく読んでおくこと。</p>	実習	<p>事前学習を行い、実習で必要となる知識と技術について確認しておくこと。</p> <p>実習後の振り返りにおいては、他の科目の授業で学習した知識と技術を統合し、実習成果のまとめに取り組むこと。</p> <p>実習期間中は、各自が毎日、一日の実習を振り返り、実習記録を作成する。</p>	
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				

13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	実習施設の役割と機能に関する知識、子どもの特性やニーズを理解するための知識と対人援助技術・保育技術が必要となります。			
テキスト	新 基本保育シリーズ 20「保育実習」 公益財団法人 児童育成協会監修 中央法規 出版			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	事前学習の状態に応じて、適宜紹介します			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	実習中の気づきや学びはメモに残しておきましょう。関連する科目の復習を丁寧に行い、実習に必要な知識を身につけましょう。			

達成度評価に関するコメント	「その他」(実習評価票・実習課題等の達成状況)、「レポート外の提出物」(実習日誌)により評価します。
---------------	--